

スギノアカネトラカミキリの寄生部位について

1 研究のねらい

スギノアカネトラカミキリは枯枝に産卵する。寄生部位を除去することにより被害の予防が期待され、枝打ちが推奨されている。本調査では寄生部位調査を通して枝打ちの有効性を示すこととした。

2 研究方法と結果

36年生の被害木を枝、幹とも細かく割材し、寄生部位を調査した。樹幹に着生している枯枝には多くの寄生がみられた。一方、従来は注目されなかった生枝にも寄生がみられた。生枝には2次枝の枯れから進

入しており、生枝だけで成長し樹幹に進入することは少なかった。また、樹幹の被害は死節周辺に発生しており、枯枝の進入経路としての危険性を裏付けた。

3 成果の活用

樹幹への進入経路となった枝は最も早くて12年生の時、4mの高さで枯れているので、時期を失せず枝打ちを行う必要がある。また、寄生を受けた生枝は枯枝に接する高さに多く発生していることから、枯枝と同時にそれと接する部分の生枝も含めて枝打ちを行えば良い。

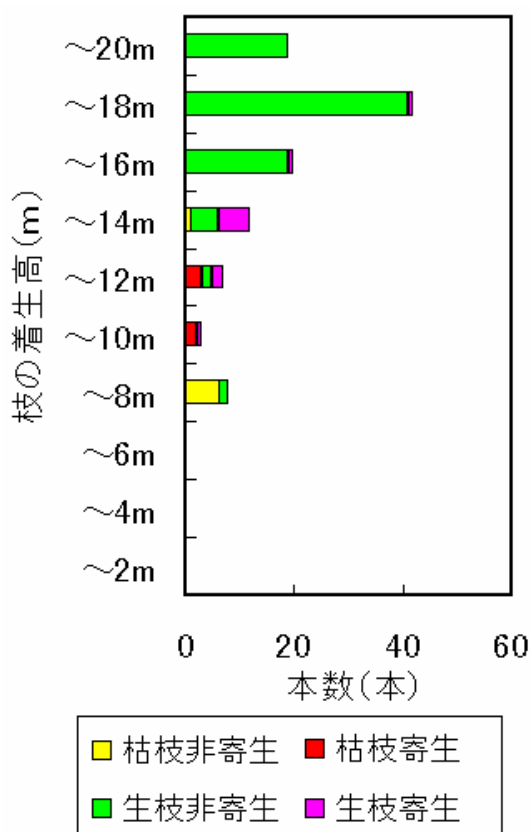


図 枝における寄生状況 (高さ別)

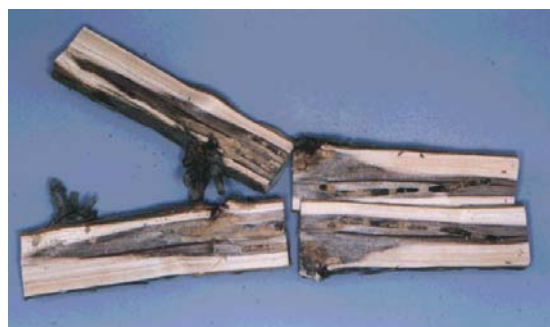


写真 生枝の食害痕の様子



写真 枯枝から幹に進入して食害した様子

(担当 専門研究員 高橋 健太郎)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第三地割字清水 560-11
岩手県林業技術センター
ホームページアドレス

TEL 019-697-1536

FAX 019-697-1410

<http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>